

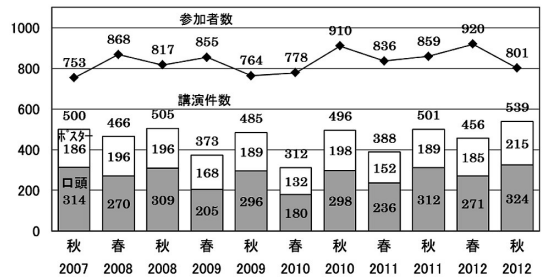
2012年度秋季大会の報告

2012年度秋季大会は、北海道大学学術交流会館およびクラーク会館（札幌市北区北8条西5丁目および8丁目）を会場として2012年10月3日（水）～5日（金）に行われた。参加者数（前納登録者と当日受付者の合計）は801名であった（第1図）。

2日目午後には、学術交流会館・講堂において山本・正野論文賞が宮崎和幸氏と時長宏樹氏に、堀内賞が伊藤昭彦氏と江守正多氏に、奨励賞が足立 誠氏、多治見の気温をはかる会（代表：吉田信夫氏）にそれぞれ授与された。授賞式に続いて山本・正野論文賞及び堀内賞の受賞記念講演が行われた。記念講演に引き続き、大会シンポジウム「気象学が地域の未来にいかに関与できるか？～これからの北海道の地域づくりと気象学の研究～」が開催され、5件の基調講演と総合討論が行われた。

大会期間中は、ポスターまたは口頭発表による一般講演、並びに特定のテーマに基づいて世話人が編成する6件のスペシャル・セッションが行われた。講演件数は、一般講演が442件（内訳はポスターが215件、口頭発表が227件、口頭発表1件当たりの持ち時間は9分）、スペシャル・セッションが97件、合計539件で、これは過去最多の講演件数であった。

会期中およびその前日には、個別のテーマによる4



第1図 過去5年間の大会参加者数と講演件数（口頭、ポスター）。

件の研究会が開かれた。

今大会では新たに電子予稿集の編集・配布を試行した。電子予稿集に関する会員の意識調査を目的とするアンケートへ回答した会員に対して、PDF化された予稿集を無料で配布した。試行版電子予稿集への申込みは405件にのぼり、会員の期待の高さを裏付けた。

最後に、今大会実行委員会として大会準備・運営にご尽力頂いた札幌管区气象台、北海道大学、酪農学園大学、日本気象協会北海道支社をはじめとする北海道支部の皆様へ深く感謝の意を表します。

2012年10月 講演企画委員会